

平成23年度（第34回） 校内放送指導者講座 報告

横浜英和女学院高等学校
前田 朱由

【日時】平成23年12月26日（月）～27日（火）

【会場】NHK放送研修センター

講座1「顧問交流」

時間が合わず、顧問交流には参加することができなかった。大変残念に思いながら、いただいた名簿資料をたどっていたところ、母校の放送部の現顧問の先生から声をかけていただいた。母校での昼の放送を行うために奮闘中とのことで、昔の話を聞かれお答えすることができた。また、高校時代お世話になった恩師と再開し、情報交換をすることができたこともうれしい収穫であった。

番組制作や指導法、放送部の運営の仕方など、日頃の活動のためにテーマ別にご意見をうかがえる交流であったとのことなので、次の機会があればぜひ多くの先生方と話をしてみたいと思った。

講座2「アナウンス・朗読 初心者への指導法」

講座3「アナウンス・朗読 審査講習」

NHK放送研修センター・日本語センター
山下 俊文 エグゼクティブアナウンサー

大切なのは生徒の「声の特徴をつかむ」こと

放送部の生徒は、熱心な発声練習のあまりに、むやみに口を動かしすぎるきらいがある。自分の自然な声を出しているか。その上で、明瞭に意味通りの話し方ができているかどうかを見る。

自然な発声のために・・・

- ・あごを引きすぎずに息の通りを良くする。
- ・首の角度を考え、よく通る向きで話す。
- ・声のトーンを変えてみて、楽に出せるトーンが自分に適した声の高さ。
- ・自然に話すには、意味通りの「間」や「切り方」、「イントネーション」が問われる。
- ・4～5メートル先に届ける。
- ・アクセントの「平板」「頭高」「中高」「尾高」といった基本型を顧問も改めて学んでおく。

実際に、学校放送用に原稿を直す実践も行われた。堅苦しい言い回しを、自然で分かりやすい放送用語に直すことで読みやすくなり、聴いている生徒にも伝わるのだと実感した。

講座3では、NHK杯準決勝の録音を用いて、実際に審査をする講習が行われた。アナウンス・朗読それぞれに各自が採点した後、即座に集計が行われ、会場点と講師の点、コンテスト点を自分の付けた点数と比較することができた。審査に自信のなかった私は点数差をそれほどつけることができなかった。講評時に、同レベルの生徒の読みで難解な審査であったことを知り、冷静に判断して適正な評価をするためには研鑽が必要だと強く感じた。

アナウンス・朗読で絶対的に必要なこと

アナウンス……「話そう」「伝えよう」という気持ちがまず何より大切。

上手に読む自己満足よりも、聴かせるための努力をすべき。

朗 読 ……作品をどれだけ読み込んで表現しているか。

ただ「音」に変えるだけではだめ。「間」をうまく表現する。

講座4「実践発表」

国立米子高等専門学校 田中 晋先生

少人数の部員でスタートした米子高専の放送部が、活動初期のうちにNコンで入賞を果たす活発な部となった経緯について報告があった。「校内で目立つこと」を目標にされたなど、コンテストでの入賞のみならず学校内での放送活動を大切にされているところがすばらしかった。また、理系

生徒の知識や好奇心を生かし、必要な機材を自分たちで作ってしまうという器用さを羨ましく思った。田中先生ご自身が映画制作に携わって、映像制作やシナリオ制作の勉強をされていることも、生徒に大きな刺激となっているようだ。

講座5「番組制作にあける法的注意点」

NHK総合リスク管理室 法務部
梅田 康宏 弁護士

「著作権」の問題について、NHKでの実例を交えたとても分かりやすい講義だった。著作権処理は丁寧に行わねばならないが、過敏になりすぎる必要もないことがわかりほっとした。講義終了後、梅田先生は質問攻めになっていて、お話ししたくても難しいくらいの人望であった。

- ・著作権が発生するのは「表現のみ」。
保護されないもの（アイデアや思想、歴史的事実、ありふれた表現など）
- ・権利行使に際して、「公正な利用」に対しては権利を主張できない。
- ・公表された著作物は「引用」できる。（報道や研究など、目的上正当な範囲内ならば）
- ・出所表示をすること。
- ・建物は、屋外に存在するものを撮影しても問題はない。敷地に入る場合は許諾が必要。
- ・撮影・録音中、音楽が入り込んでしまった場合は、明瞭でなければ問題はない。

講座6「番組技術と模擬審査」

NHK制作局 青少年・教育番組部
工藤 俊二 チーフディレクター

何を伝えるのか 「見る立場」を忘れずに

顧問も審査員も一般視聴者も、番組を「見る立場」に変わりはない。どんな大プロデューサーでもこのことに変わりはないのだと教えていただいた。たくさん取材をしてロケを重ねると、映像への思い入れが強くなり、名場面をすべて使いたいと無理な編集でつなぎ合わせる生徒が出てくる。顧問も一緒に思い入れだけが強くなってしまうと、「独りよがり」な作品になってしまいかねない。視聴者を意識した冷静な視点を忘れずに、伝えたいことが明確になるよう素材のそぎ落としをせねばならないと感じた。

番組制作で大切なこと

- 映像編集……原則を大事に ①適切な映像インサートで「映像に語らせる」。
②内容を厳選する。（欲張って詰め込まない）
- 取材（ロケ）……しっかり取材をすることで、取材対象の魅力が伝わる。
ポジションを熟考する。（インタビュー時のカメラの位置など）
- タイトル……ぱっと見ただけで内容が分かるような名前を。（独りよがりにならない）
- ドキュメントとは……「記録」することから始まる。そのための撮り方を。
ネタだけで成り立つものはない。ある材料でいかにいいものを作るか。
楽しく作る→何がやりたいのか見えてくる。

コンテストに出品された3つの作品を視聴して、審査講習が行われた。うち1作品は、ネタは良いのに今ひとつ伝わりにくかったが、工藤ディレクター自らが分かりやすく再編集したことで、よりよい作品となっていた。番組制作における構成の重要性、伝え方の工夫の大切さを実感した。

◎指導者講座に参加して

顧問として初心者である私は、今回初めて参加させていただいた。全国各地からの熱意あふれる顧問の先生方と同席して、もっとがんばりたいという意欲がわいてきた。もうベテランでいらっしゃるのに何度も参加されて勉強なさっている先生も数多く、「放送」は学ぶことの多い奥の深い世界だと改めて感じた。

また、神奈川県先生方が中枢で活躍されているお姿を拝見して、感謝と尊敬の念を抱いた。お役に立てるように経験を積んでいきたい。